

ふれあいを大切に、あなたと育む JAえひめ南 広報紙

えひめ南農協味産共選場

みなみかわせ

2018

9

No.258
JA EHIME MINAM
MINAMIKAZE



協同の力

地域を守る。広がる支援の輪。

特集

○ 被災地復興へ

被災地復興へ

土砂くずれでミカンの木がなぎ倒され、スプリンクラーの配管が地面から飛び出している。吉田町のかんきつ園地(7月9日)

JA えひめ南の取り組み

西日本を襲った「平成30年7月豪雨」はJA えひめ南管内にも甚大な被害をもたらし、地域の暮らしやなりわいを奪い去りました。被災地では今、日常生活を立て直そうと懸命な復旧作業が続いています。これまでに経験のない未曾有の災害。JA えひめ南は地域のために、生産者のために、一日も早い復旧・復興に向け全力を尽くします。



災害対策本部を設置

西日本豪雨の直後に「災害対策本部」を立ち上げ、職員の安否確認や管内の被害状況の速やかな調査を行い、対策を検討しています。今後も行政や関係機関と連携し、可能な限りの支援を講じていきます。



農林水産省を招き会議



役員が組合員訪問



被災地を巡回



山田俊男参議院議員(右)
JA えひめ南 黒田義人組合長(中)
JA 愛媛中央会 田坂實会長(左)



山田議員らが管内で甚大な被害を受けた園地や施設を視察

防除、生活用水に



東連寺ダムに設置した取水ポンプ

西日本豪雨災害により農作業が困難になった農家や地域住民を支援しようと、JA えひめ南は防除や生活用の取水場を開設しています。同JA 立間中央支所管内に8カ所取水用のポンプ機やスタンドを設置。7月12日から開始し、組合員や行政など1日に約20人が利用しています。

同JA管内のかんきつ園地は約2140畝のうち、甚大な被害は現時点で約1割程度の農地や農道の崩壊を見込んでいます。大中被害は農道が寸断され現地確認は難航しています。半数程度の農地・農道の崩壊、スプリンクラーの配管が壊れたり、農機具やモノラックが破損したりするなどの被害報告を受けています。

各地に設けた取水場の利用時間は午前8時～午後7時で誰でも利用可能。水代はJAが負担します。

地域の営農と暮らしを守る

西日本豪雨災害で断水に見舞われている地域住民を支援しようと、JA えひめ南は給水場を開設しています。

吉田町に3カ所、三間町に1カ所、生活用の給水タンクを設置。7月10日から始め、連日多数の地域住民が利用しています。1日に2回、職員が協力して補充しています。JAの事務所でポリ容器(20ℓ)の貸し出しも行っています。

同JAは断水している地域住民への支援として給水場開設のほか、7月15日から吉田町立間にある葬祭センター「ルミエールよしだ」のシャワールーム無料開放も始めています。利用時間は午前10時～午後5時30分までで1500ℓの容量が無くなり次第終了。石鹸やシャンプーも用意しています。

吉田地区の城下寿さんは「断水が続き、トイレやお風呂などの生活用水に困っているので非常に助かる。今後もJAの力を借りたい。」と話します。

総務部総務課の坂本憲二課長は「被災地の方々が生生活用水を確保できるよう、JA役職員一丸となって取り組んでいる。断水が解消されるまで一人でも多くの方に利用していただきたい。」と強調しています。



開設した給水場（立間中央支所前）



JA えひめ南女性部奮闘

「できることから」

「頑張ろう」

JA えひめ南の女性部員や役職員らが、浸水や土砂崩れに襲われた管内の復旧作業や被災者の生活支援を行いました。

同JAは、被災した宇和島のAコープ西日本吉田店にあった商品を、市を通じ各避難所に提供。女性部の有志と生活部職員らが、土砂が流入した店内で飲料や食料品などを集めました。女性部は、被害を受けていない部員から「被災地を支援したい」という多数の声を受け、7月9日から支援活動を始めました。

協同の力



義援金の目録を手渡す JAいわて中央浅沼清一組合長

姉妹JAが見舞う

JAえひめ南は7月15日、姉妹JAを結ぶJAいわて中央の浅沼清一組合長ら3人を出迎えました。浅沼組合長らからお見舞いの言葉と目録を受け取った後、約1時間対談。JAえひめ南の黒田義人組合長らが被害状況を説明し、農業被害よりもまず生活を取り戻すために復旧していることを明かしました。また、今後JAとして被災農家の思いをどう汲み取ればよいかと尋ねました。JAいわて中央の3人は真剣に話しを聞き、東日本大震災での経験を踏まえて受け応えをしました。

浅沼組合長は「深刻な状況が分かった。必要な物、協力できることがあれば何なりと言ってほしい。姉妹提携JAとしてできる限りの支援をする。」と力強く話し、配給等の支援を提案しました。清家治専務は「遠く離れた岩手から来て頂き感謝。計り知れない災害の痛みを知った者にしか分からない言葉の重みを感じ、胸が熱くなった。今後も手を取り合い、協同の力を発揮したい。」と話しています。



JAいわて中央



JA栗っこ(宮城県)

浸水農機を修理

JAえひめ南は7月23～25日、姉妹JAを提携する宮城県のJA栗っこから西日本豪雨により浸水した農機を修理する支援を受けました。

宇和島市吉田町にある同JA農機センターで、JA栗っこの大内一也専務ら3人は、浸水により壊れた農機を手に汗を流しました。組合員が持ち込んだチェーンソーや草刈り機などの状態を確認した他、エンジンに入った泥を取り除きました。組合員からは「再び使用できるようになり大変助かった」と喜びの声が上がっています。

両JAは2009年3月18日に姉妹JAを締結し、協同の力を発揮しています。2011年3月に発生した東日本大震災の際は、同JAから水や愛媛みかんジュースなどの救援物資を届け、お見舞いとしてJA栗っこを訪問しました。JA栗っこからは現在、人的支援の他、義援金や不足するポリタンクを受け取っています。

JA栗っこの大内専務は「一日も早い復興に向けて諦めずに頑張ろう。姉妹JAとして出来る限りの協力をする。」と作業に励みました。

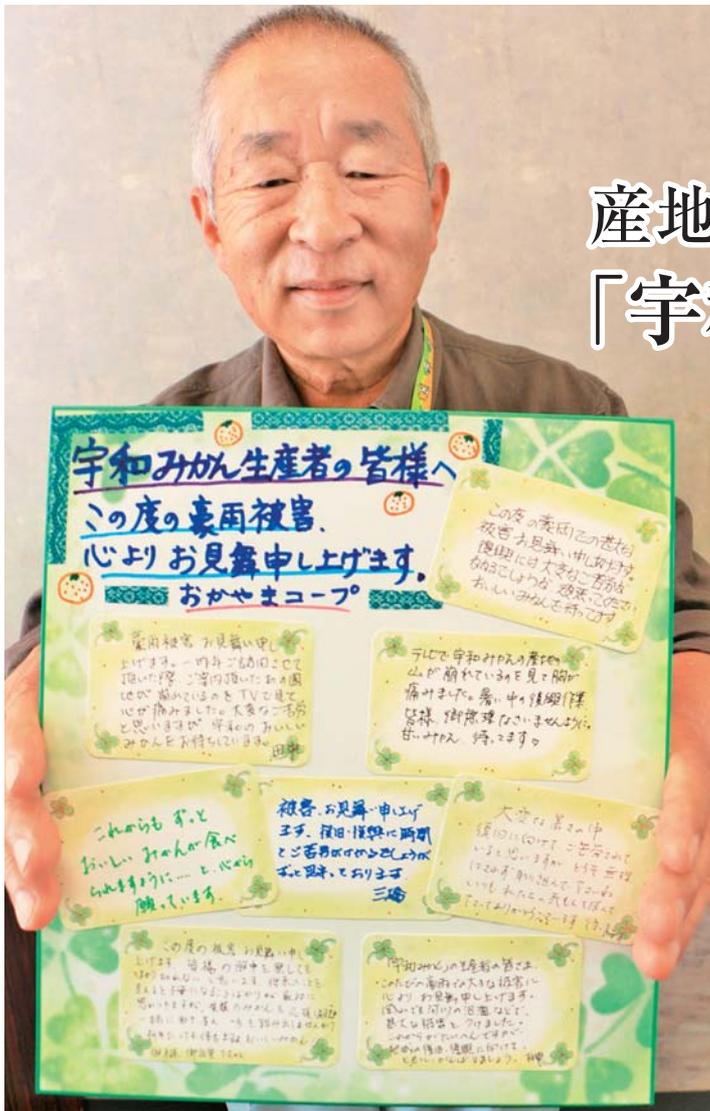
黒田義人組合長は「農家にとって大切な手足である農機の復旧が急がれる折に遠方から来て頂き、姉妹JAの厚誼に感謝。」と話しました。



浸水した農機を修理する
JA栗っこ大内専務

復興へ

産地提携先おかやまコープ 「宇和みかん 待ってる」



被災した生産者へ心温まるメッセージが寄せられた色紙

JA えひめ南は7月26日、生活協同組合おかやまコープの平田昌三理事長と商品企画担当の山本真路さんを受け入れました。黒田義人組合長と清家治専務が義援金の目録とおかやまコープ組合員からの色紙を受け取った後、互いに被害状況を説明するなど対談しました。

色紙には、「2年前に訪問したあの園地が崩れているのをテレビで見て心が痛んだ。暑い中での復興作業、無理のないように。」「何年たっても待ちますよ。宇和みかん!」など心温まるメッセージが寄せられています。

平田理事長は「協同組合は組合員あつての組織。宇和みかん生産者の方々が少しでも元気になるよう言葉を形にした。心に響くものがあれば嬉しい。」と気持ちを伝えました。

黒田組合長は「岡山も豪雨被害で大変な状況の中、気持ちのこもった色紙を届けていただき心から感謝している。この気持ちを力に変え、災害に立ち向かいたい。」と話しました。

同JAは1991年、おかやまコープ店舗の主力産地として提携を結びました。温州ミカンの他、伊予柑や宇和ゴールド(河内晩柑)などの晩柑類を供給し、「浜風情熱宇和みかん」として販売しています。宅配では「宇和みかん」として展開しています。2016年11月には産地提携25周年記念として、おかやまコープ組合員理事らが、味楽共選場や吉田町玉津地区の産地を視察する交流がありました。



全国各地から水や食料品をはじめ、ポリタンクなど様々な救援物資を受け取りました。

極早生出荷 必ず

一丸で洗淨急ぐ

JAえひめ南味楽共選場では7月下旬から連日、農家組合員と職員30~40人が協力し、浸水し土砂が堆積したキャリーの洗淨作業に取り組んでいます。極早生の出荷に向け9月までに農家に貸し出す6万個のキャリーを洗淨する予定です。

組合員が1人1台ずつタンクとエンジンを提供し、動力噴霧器で汚れを洗い流す作業やスコップで泥を取り除く作業など役割分担し、多い日には1万2千個を洗っています。

農家の梅本恵造さんは、「キャリーがなければ仕事にならない。極早生を出荷できるように、力を合わせて復旧に努める。」と作業に汗を流します。

味楽共選場の松本幸治所長は「農家の共選場に対する協力意識が高く、困難な作業が続いているので非常に助かっている。」と話しています。

ボランティア続々と



災害・連携協定を結ぶ高知はたの職員と黒田組合長



被災した施設の復旧作業に励む職員

JA えひめ南は連合会や「連携・災害協定」を締結しているJA 高知はたやJA グループ愛媛の中央会や連合会から災害復旧ボランティアの支援を受けながら、復旧作業を展開しています。

7月13日、JA 高知はたから6人、連合会から14人が派遣され、喜佐方共選場、直販センター、味楽共選場に分かれ同JA職員と協力して復旧作業を進めました。主に重機やフォークリフトを使って廃棄物や土砂の撤去を行いました。

同協定は、地域農業の活性化に向け両JAが連携する他、災害発生時は互いに支援活動に取り組むことを目的に、平成28年10月14日に締結しました。災害による人的派遣は今回が初めてです。



7 / 4

水稻病害虫を調査

JA えひめ南が所属する北宇和連作物部会は、毎年7、8月に実施している水稻病害虫調査を行いました。JA や地方局、市町の関係職員ら16人が参加し、今後発生増が懸念されるカメムシ類・ウンカ類・いもち病の発生状況について調査しました。

鬼北、三間、津島の3班に分かれ、「コシヒカリ」や「にこまる」など同JA管内で作付けしている圃場（ほじょう）で約2時間実施しました。参加者は手分けして病気の発生がないか稲を観察。虫は網でのすくい取りと、油を敷いたケースに粘着させる方法で捕獲し、カメムシ類・ウンカ類を確認しました。

結果は全体で3種類のウンカ、5種類のカメムシといもち病を確認しましたが、台風の影響から3地区とも前年より病害虫の発生は少なかったです。今後、発生状況を各営農センターに報告し、農家に散布時期や防除の徹底を呼びかけます。

同JA営農振興部農産指導課の酒井優さんは「前日の台風の影響も心配したが予定通り実施できてよかった。病害虫の発生が少ない結果となったが、今後の梅雨明け・気温上昇に伴う病害虫の発生増に注意し適期に防除してほしい。」と話しています。



病害虫の調査をする参加者



7 / 5

講習会で粗摘果徹底



粗摘果のコツを説明する松本指導員



JA えひめ南宇和島共選中晩柑部会は7月5日、部会員の栽培技術向上や情報共有を目的に摘果講習会を開き部会員15人が参加しました。毎年7月頃、本格的に摘果作業を行う前に実施します。

講習会では、宇和島市の高光、藤江、坂下津、来村にある部会員の園地を巡回しました。同JAみかん指導課の松本和樹指導員が「せとか」「ポンカン」「不知火（デコボン）」「甘平」「愛媛果試第28号（紅まどんな）」の摘果を実演し、それぞれの品種に合わせたコツを指導し、部会員は熱心に耳を傾けました。今年の肥大状況は比較的良く、樹一本一本に合わせた丁寧な摘果が重要となります。

松本指導員は「9月に雨が降ることが多くなっている。品種によって優先順位をつけ後期摘果にも力を入れてほしい。」と呼び掛けています。

部会員の三浦義博さんは「中晩柑部会は技術力の高い仲間たちばかり。毎回の講習が技術の研鑽に繋がる。今回も他の部会員の園地を巡回し情報共有することで、自分の園地で改善すべき点が見つかった。」と意欲的に話しています。



7/11

地域をキレイに！

JA えひめ南では毎週水曜日に職員がボランティア活動に取り組んでいます。午前8時から30分間、本所周辺の朝日町や寿町のゴミ拾いを行っています。今後もボランティア活動を通して積極的に地域活性化に貢献します。



ボランティア活動に取り組むJA職員



7/12

第17回「みなみ会」総会



「みなみ会」井上真一会長

7月12日、JA えひめ南特産品センターへ出荷する生産者の会「みなみ会」は第17回定期総会を開き会員や来賓約120人が参加しました。総会では議事のほか、出荷に貢献した生産者の石本充子さん、柴田由美さんの表彰が行われました。

「みなみ会」は今年度、創業20周年を迎えます。今後も会員が一丸となって地域と密着した魅力ある直売所づくりに取り組み、年間来客数70万人を目指します。



7/13

野菜部会総会



JA えひめ南野菜部会は7月13日に総会を開き、来賓や会員23人が参加しました。

総会では議事として全ての議案が承認されました。また、役員の変更が行われました。今年度は鬼北町の加賀田幸二さんが部会長を務めます。

野菜部会は今年度、地域の特性を活かしたモデル営農類型を提案し、農産販売課と連携した生産拡大を図り、集出荷場の統合整備によりロットの確保、品質の統一を目指します。

パズル？ 頭の体操

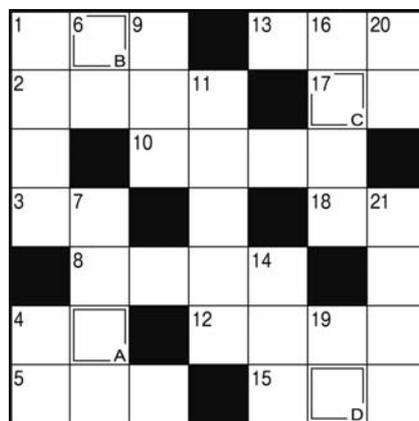
出題●ニコリ

タテのカギ

- ① 電流を流したり切ったりする装置
- ④ 深谷・下仁田、九条といえは
- ⑥ 膝より下へくるぶしより上
- ⑦ 野山を耕して田畑にすること
- ⑨ 鉄棒や跳び箱を使って行う―体操
- ⑪ 木を育てたり切り出したり加工したりする仕事
- ⑭ 体の90%以上が水分だという、水にすむ生き物
- ⑯ 年下の女きょうだい
- ⑰ 田楽にしてもおいしい紫色の実野菜
- ⑲ あ、おいしそう。ひと―ちょうだい！
- ⑳ カイコの繭から作ります

ヨコのカギ

- ① 十五夜に飾る植物
- ② 米の収穫作業の一つ
- ③ エレベーターの表示では「B」
- ④ よく飼われているペットなんだニャ
- ⑤ 石原裕次郎と牧村旬子のデュエット曲―の恋の物語
- ⑧ ――足りて礼節を知る
- ⑩ 和風の携帯薬入れ。黄門様のドラマでおなじみです
- ⑫ 恋愛運や金運などを見てもらいます
- ⑬ カラオケ店で離さない人もいます
- ⑮ 招く人がホストなら、招かれる人は
- ⑰ 月の模様はウサギがこれをついてい
- ⑱ 佐渡島に保護センターがある鳥



7月号の答え



たくさんのご応募ありがとうございます。7月号の答えは「サイヤインゲン」でした。正解者の中から抽選で5名の方に、JA支所店舗などでお使いいただける15000円分の商品券をお贈りします。なお当選者の発表は、賞品の発送に代えさせていただきます。(〆切9月30日)

〇月号の答え〇〇〇〇〇〇〇〇

郵便番号 宇和島市栄町港 三三〇三三

住所 JAえひめ南 総務課 様

氏名(年齢) 〇〇〇〇

電話番号 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

本誌に関する感想やご意見などを聞かせください。

メール eminami@ja-eminami.or.jp



イラスト：小林裕美子

レタス ~多種多様な仲間でにぎわう サラダ野菜~

楽しみ方・食べ方のコツ

手でちぎるのがおススメ

ドレッシングが絡みやすい

葉は包丁で繊維を断ち切ると栄養が流失しやすくなる上、包丁の鉄で酸化して変色したり、苦味が強くなるので注意

ドレッシングを掛けるのは食べる直前

葉の断面が塩や酢に触れると水分が出てしんなりしてしまうのでよく切ったレタスを少量の油であえてから塩や酢を入れるとシャキッとしたサラダに

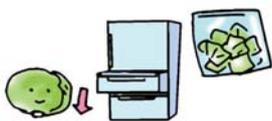
油と一緒に食べてカロテンやビタミンEの吸収率アップ!

炒める場合はしんなりする程度で火を止めて色と食感を大切に

加熱するとかさが減って、たっぷり食べられるよ

保存方法

鮮度が落ちると苦味が強くなるので、なるべく早く使い切り。う一度に使い切れない場合は、外側から葉を剥がして使う



冷凍保存

洗って水気をよく切り、適当な大きさにちぎってポリ袋に入れての炒め物やスープなどの加熱調理に便して便利

芯だけ水分を補給できる状態にすると多少長持ちするよ

水気をよく切ってポリ袋に入れるかラップに包んで冷蔵庫の野菜室にの芯を下向きに



芯の部分をくり抜き、ぬらしたペーパータオルを詰めてポリ袋に入れても良い

稲作部会部会長の一言



JA えひめ南稲作部会 部会長
長田 敏夫(おさだ としお)

<プロフィール>

生年月日：1946年7月18日生まれ 72歳

主な経歴：2005年4月～就農

2017年7月～稲作部会長

趣味・特技：魚釣り

尊敬する人物：先輩

休日の過ごし方：日曜大工、農機具の手入れ

好きなアーティスト：加山雄三

座右の銘：真実一路

米は日本人の主食

まずは、この度の西日本豪雨によりJAえひめ南管内におきましても甚大な被害がでており、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

米は日本の食文化と言われており、稲作部会では安心で安全な米作りを目指し、売れる米作りに向けた生産指導に取り組んでいるところでございます。

しかしながら高齢化による後継者不足により部会員が年々減少しているのが現状で、農地におきましても、耕作放棄地が多く見られるようになり、農業委員会等でも問題になっているようです。

最近では食生活が大きく変化する中で、米の消費が大きく減少しており、住民の皆さんと共に、生産面と消費面の双方の取り組みを進める必要があるのではないかと思います。今後は、高齢者が安心をして能力を発揮し生きがいをもって活動できる環境の整備等の対策が必要になってくると思っております。

今後とも、部会員と共に農業の発展に取り組んで参りたいと思っておりますので、関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

理事会報告
平成30年度 第4回理事会

平成30年7月30日(月)

(協議事項)

第1号議案 平成29年度下期監事監査指摘事項に対する回答について

第2号議案 平成30年度マルエム出荷組合柑橘前渡金支出について

第3号議案 平成30年度ディスクロージャー誌の発行について

第4号議案 「西日本豪雨災害」に伴う施設の復旧について

(報告事項)

① 平成30年6月末決算結果について

② JA財務モニタリング報告について

③ 総体的なリスク管理表の報告について

④ 経済事業内部統制整備の進捗状況について

⑤ 事務ミス・相談苦情・ヒヤリハット報告について

⑥ 疑わしい取引の届出状況について

⑦ 反社勢力との取引排除にかかる対応状況について

⑧ 自主検査報告について

⑨ 平成30年7月豪雨に対する災害対策資金の対応について

⑩ 平成30年度第1四半期余剰金運用状況及び第2四半期運用計画・運用方針について

⑪ 平成30年6月末組合員加入脱退状況について

⑫ 平成30年7月5日以降の豪雨災害被害および調査状況について

⑬ 「西日本豪雨災害」における被害概況について

(その他)
⑭ 次回理事会開催予定について
平成30年8月28日(火) 午後1時30分

おいしくつくりたいダイコン作りのポイント

ダイコンは、強大な根を速いスピードで地中に形成するので、根形や品質が土壌や肥料栄養の影響を受けやすい性質を持っています。

そのためには、次のポイントを押さえて育てることが大切です。

(1)畑の準備と元肥の施し方
少なくとも種まきの20日以上前に畑全面に石灰をまき、石ころや木切れなどを取り除きながら30cm以上の深さによく耕します。吸肥力は強い方なので、前作に堆肥が施してあれば、特に堆肥を与

える必要はありません。

痩せ地で有機物不足が心配なら、完熟堆肥と有機配合肥料をよく混ぜ合わせ、事前に醗酵させた物を、株と株の間に当たる所に施し、根の伸びを妨げないようにします。

(2)まきどきを守る

早まきし過ぎると病害虫の被害を受けやすく、遅過ぎると根の肥大不足になります。関東南部以西の温暖な平たん地のまきどきは8月中旬～9月中旬です。品種による違いもあるので、種子を求

めるときに適期を確かめ、適期範囲のやや遅めにまき、管理を念念にして成長を促進するように心がけましょう。

(3)間引きと追肥、入念な土寄せ

種子は1カ所5～6粒を、瓶などで円状に付けた溝にまきます。発芽して本葉1枚の頃から8～9枚の頃にかけて3回ほど間引き1本立てにします。間引く際には、子葉がハート形で素直に開いている株を残すようにします。異常に育ちの早い株や、形が非対称の株は、岐根や短形になる場合があります。

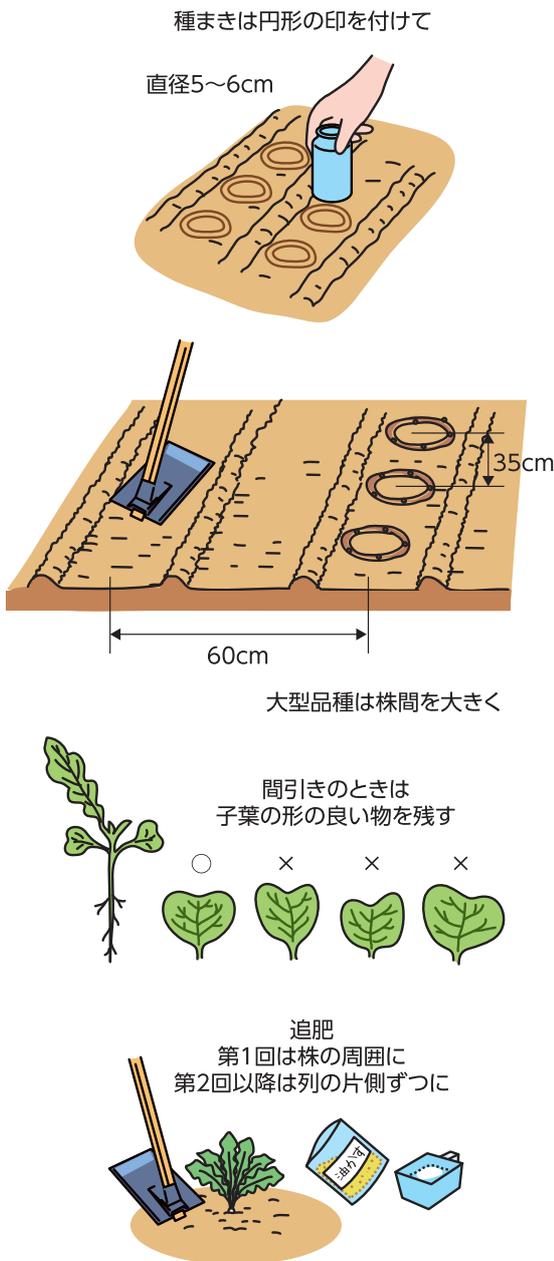
あるので残さないよう注意しましょう。

間引いたら株の周りに土を寄せ、風で振り回されないように保護し立ち上がらせます。追肥は第2回の間引き時から半月ごと3回ほど与え、土を掛けて畝を作ります。肥料は化成肥料と油かすに加え、米ぬかを混ぜると食味が良くなります。

(4)害虫の予防、駆除を怠りなく
アブラナ科野菜の常として各種の害虫(シンクイムシ、コナガ、アブラムシ、ハスモンヨトウなど)の被害が出やすいので、早めに発見、適応農薬を散布して防ぎます。

農薬に頼らない防除法としてはソルゴーを何列か置きに作り障壁にすること、防虫ネットやべた掛け資材の被覆などがあります。被覆は種まき後3週間以内ぐらいにしないと生育に支障を来すので、除覆する時期に注意してください。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。



本誌の感想をはじめ、皆さんの身のまわりで起きた小さなニュースをお送りください。掲載させて頂いた方にはお礼として、お近くの支所店舗でお使い頂ける500円分の商品券をお贈りします。(お送りいただいた内容は主旨を変更しない範囲で語句を修正させていただく場合があります)

組 会員訪問内で同級生のあの彼が表情豊かに活躍している様子。ふんばって頑張っていて下さい。応援しています。(愛南町 T・Hさん 62歳)

表 紙の写真がいつも素敵です。(鬼北町 T・Sさん 63歳)

加 藤純市さんの笑顔。両手からこぼれんばかりのヤブキタの新芽、味、香りと共に届けられそうです。(宇和島市 E・Wさん 51歳)

松 野町のお茶の記事、関心を持って読ませていただきました。これから松野のお茶も味わってゆきたいと思えます。(三間町 S・Iさん 75歳)

以 前我が家でも松野町の知り合いの方から自家製の一番茶を、和菓子をおともにいただきましたが本当に美味しかったですね。(三間町 T・Mさん 65歳)

や っぱり真土の茶は美味しいですね。今年は松野まで茶摘みに行ってみましたよ。おいしいお茶は健康の秘訣です。(鬼北町 S・Sさん 62歳)

ピ ワの思い出であります。主人が入院していた時、昼食のデザートとしてピワがついていました。1個主人が食べ、もう1個私が食べました。

とても甘く、食べごたえがあり、とても美味しかったことを思い出します。山下さんの育てられた大切なピワを味わいたいと思います(鬼北町 T・Nさん 62歳)

「み なみくん」創業20周年おめでとうございます。きさいや広場ができるまで、大変なご苦労があったんですね。それを乗り越えて、お客様に喜んでいただいている今の「みなみくん」があるんですね。これからも頑張ってください。(吉田町 A・Iさん 79歳)

畏 まった受付が苦手な私は最近JAの貯金に変更しました。若い優しいお姉さんがニコツと対応してくださって嬉しいですよ。(津島町 K・Oさん ?歳)

先 日、ちいさな上映会主催の「人生フルーツ」という映画を観た。87歳と90歳の夫婦の日常を切り取ったドキュメンタリー。私の理想とする人生で観終わった後もほのぼのとした。ぜひとも大勢の人に観てもらいたい映画です。(愛南町 M・Tさん 63歳)

お便りを掲載させて頂いた方にはお礼として、お近くの支所店舗でお使い頂ける500円分の商品券をお贈りします。

おたより集

JA 共済からのお知らせ

JA 共済では、災害救助法が適用された地域のJAのご契約者さま、ご利用者さまで被災された方々に対して、共済金請求等の各種事務の手続きの際、必要書類の一部を省略させていただく等、共済金、給付金等の簡易・迅速なお支払いに努めて参ります。(具体的なお手続きにつきましては、共済金請求等の際にご案内いたします。)

お問い合わせ窓口

えひめ南農業協同組合

代表	(0895) 22-8115	鬼北広見支所	(0895) 45-1313
宇和島支所	(0895) 52-0666	岩松支所	(0895) 32-2611
立間中央支所	(0895) 58-3322	南宇和城辺支所	(0895) 72-1121

農業にも深刻な被害をもたらした豪雨災害。今月号の特集は「被災地の復興に向けて」JAえひめ南の取り組みや懸命な復旧作業の様子、全国各地からの支援を掲載しています。この特集から一人でも多くの方に、人の思いやりや助け合いの心、逆境に立ち向かう強い心が伝わればと思います。

私にとって被災地での取材は、改めて「伝える」という仕事の重要性や表現することの難しさを感じる経験となつています。今後も復興への思いを胸に、被災地の状況を伝えていきます。(藤田)



【お詫びと訂正】
みなみかぜ8月号(No.257)3ページ10行目の「梶原益光さん」は「梶田益光さん」の間違いですので訂正させていただきます。大変失礼いたしました。

今月の表紙は、味楽共選場で復旧作業に励む農家の3人です。災害に負けない笑顔で極早生出荷へ向けて頑張ります！



今日の表紙

台風19号148.8億円(平成30年9月)。阪神淡路大震災118.8億円(平成7年1月)。東日本大震災936.1億円(平成23年3月)。熊本地震145.0億円(平成28年4月)「平成29年3月末現在」。台風21・22号200億円(平成29年10月)「平成30年4月1日現在」。

これらはJA共済「建更」を通じて、自然災害に遭われた皆さまにお支払いした主な共済金の一例です。

皆さまの大切な家屋や家財を保障するJAの建物更生共済は、台風や地震などの自然災害による損害をしっかりと保障。これまで日本全国で起きた様々な災害で、たくさんの方の共済金をお受け取りいただいています。

台風や地震など自然災害をはじめ、火災や盗難などの事故にも対応。さらに掛け捨てではなく満期共済金も受け取ることができます。また、大規模で広範囲な損害をもたらす地震には損害額の50%を限度額として保障しています。(ご加入の内容、損害の割合によっては、お支払いできる共済金の限度額等が異なります。)

これからもJA共済は、いざというとき本当に皆さまのお役に立てる共済として、皆さまのそばにあり続けます。

選ばれています。 JA共済

立間中央支所 共済窓口担当
長島 綾子さん

JAには
たてこう
建更が
あります。

建物更生共済は自然災害による建物被害にも強い仕組みです。詳しくはお近くのJA支所窓口までお問い合わせ下さい。

この資料は概要を説明したものです。ご検討にあたっては「重要事項説明書(契約概要)」を必ずご覧ください。また、ご契約の際には「重要事項説明書(注意喚起情報)」及び「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。
【18386500176】